



御殿場の自然と文化と人をつなぐ美術館



■おもちゃ美術館の目指す姿

① 御殿場の自然と文化と人をつなぐ美術館

御殿場市は、富士山に代表される自然豊かな恵みに溢れていると共に、駿府と江戸を往来する際の休憩処として発展していった多様な文化風習や生活を育んだ土地でもあります。そのような「御殿場の自然と文化」のもとに、人が集い、遊び、学んでもらえる、そして富士山に並び立てるような【日本一美しいおもちゃ美術館】を目指します。

② 市の魅力を全世界へ発信する美術館

木育活動の中核拠点として、幼稚園や保育園、認定こども園などの育児施設やクラブ等とも連携したコンテンツ企画立案はもとより、木育に携わる人材育成機能を有する本市ならではの「木育のシンボル」となる施設として整備を行い、公共のおもちゃ美術館というメリットを生かして、御殿場の文化や歴史、地域のブランド木材の発信拠点として積極的に活用し、本市の魅力を「全世界へ発信」していくことを目指します。

③ 木のぬくもりや暮らしの原動力となる美術館

地元産の木材を活用して、乳幼児から高齢者まで多世代に渡って本市の豊かな自然を感じられる空間とし、本施設では木がもたらす文化や温もりある遊びを通じた体験から学び、親しみ、生活の中に木を取り入れる契機となることで、木と共に成長できる新しい次世代型の豊かな暮らしの創造の原動力となる美術館を目指します。

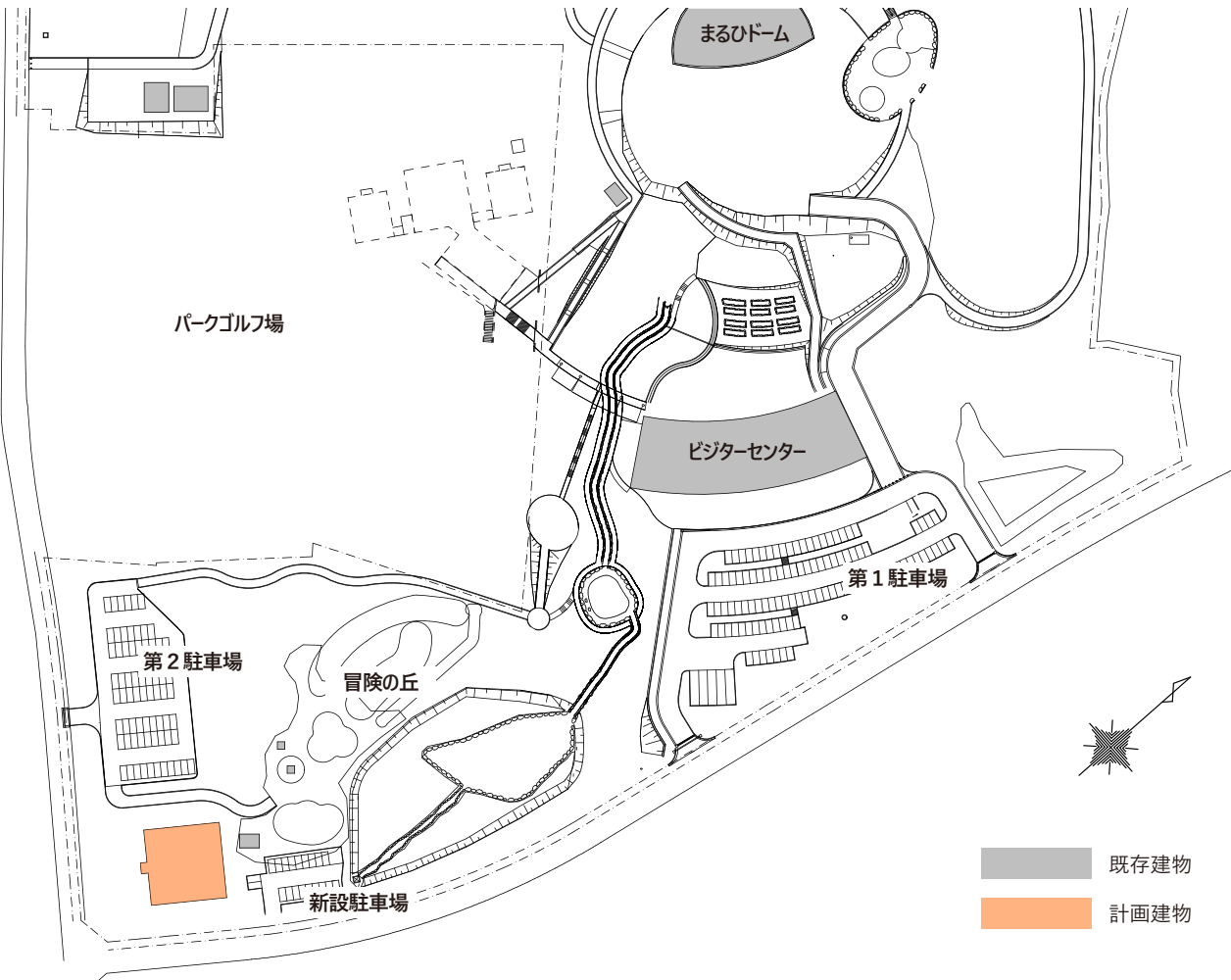
■事業目的

木とふれあい、木に親しみ、木に学ぶ

御殿場市では SDGs の理念に基づき、森林資源の保全・活用、地域活性化、御殿場らしい人づくり等につながる『木育』を推進していくため、令和4年4月に「ごてんば木育推進宣言」を行いました。また、将来にわたって市全体で『木育』を推進していくため、その道しるべとなる「御殿場市木育推進基本構想」を策定しました。本事業では推進宣言・基本構想を踏まえ『木とふれあい、木に親しみ、木に学ぶ』環境づくりの一環として、幼児から高齢者まで全て人が木のぬくもりを感じられ、木に親しみを持てる木育環境を提供する施設を富士山樹空の森に整備していくものです。

■配置計画

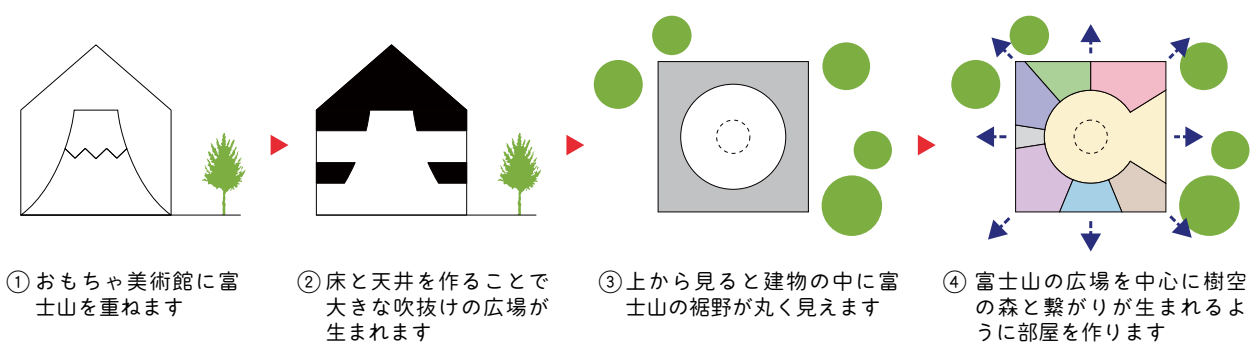
配置図



デザインコンセプト

富士山を（まる）ごと楽しむ

樹空の森から見える壮大な富士山と上空からの富士のすそをモチーフした空間デザイン。大きな吹抜け空間がもつ連続性から上下階の一体性を待たせた空間演出を行い空間をつなげる。



配置図



外観イメージ



敷地の概要

- ・施設名称：御殿場市富士山交流センター（富士山樹空の森）
- ・計画場所：静岡県御殿場市印野1380-15
- ・敷地面積：105,490.23 m²
- ・都市計画区域：市街化調整区域

建築の概要

- ・階数：地上2階建て
- ・延床面積：1348.47 m²
- ・最高高さ：11.43m
- ・構造：鉄骨造

本施設の取り組み

■ZEBready

脱炭素化、省エネ環境への配慮として外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物を目指します。

■地元木材の積極的利用

印野地区・県・地元木材協同組合と連携することで地元地域産材の積極的な活用を目指します。

■樹空の森について

「富士山の情報発信」「自衛隊との交流」「地域活性」の役割を担うおよそ10haの広大な公園施設であり、施設内には子供と遊びながら楽しむことのできる「冒険の丘」や「わんぱく広場」のほか、桜やバラ、アジサイなどが植えられたエリアがあり、年間を通して季節ごとに色とりどりの様子を楽しむことができる。

■建築予定エリア

樹空の森の南面の交差点に位置し、現在まで「いこいの森」として手付かずに残されていた自然が広がるエリア。交差点という立地の良さ、施設の視認性、既存駐車場及び冒険の丘とも隣接していることによる発展拡張性、視界に広がる富士山の眺望といったエリア活性化の起爆剤となる素晴らしいロケーションとなっている。

■配置計画

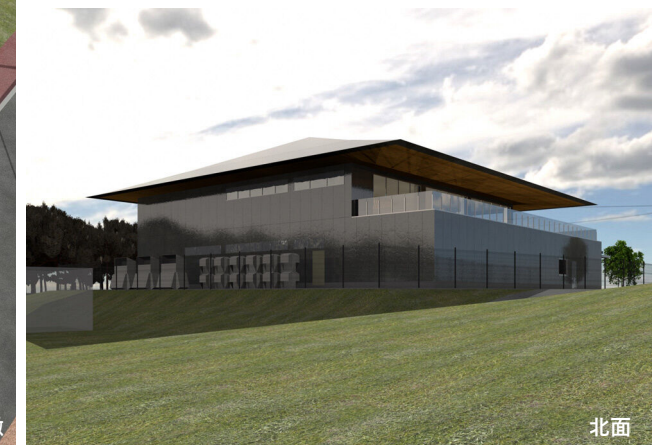
日当たりのよい南側に広場・エントランス・休憩スペースを設け来館者に期待感やくつろいでいただける環境づくりに配慮した。また、新設・既設駐車場からのアクセスに配慮した正方形プランとし、交差点からの圧迫感を軽減させるため、冒険の丘側へ寄せる計画とした。

■外構計画

各駐車場から（仮称）富士山木のおもちゃ美術館へのアプローチ上に広場を整備し、年間で予定されているイベント及び祝日や週末のような繁忙日において、施設全体の賑わいを創出していく。具体的にはキッチンカーに対応できる電気設備機器の配備、その周囲で滞在が可能となるテーブル等の家具の設置、木育の拠点に相応しい木工アート等の設置の計画をおこなう。また、既存駐車場での駐車混雑を想定し20台程度駐車可能な新駐車場を整備し、接道の交差点側からのアプローチを容易とするために、敷地斜面に対してアプローチ階段を設置することとしている。これにより新設される駐車場からの動線及びビジターセンターからの歩道を利用したアプローチも可能となり、樹空の森全域での回遊性が上昇するものと考えている。



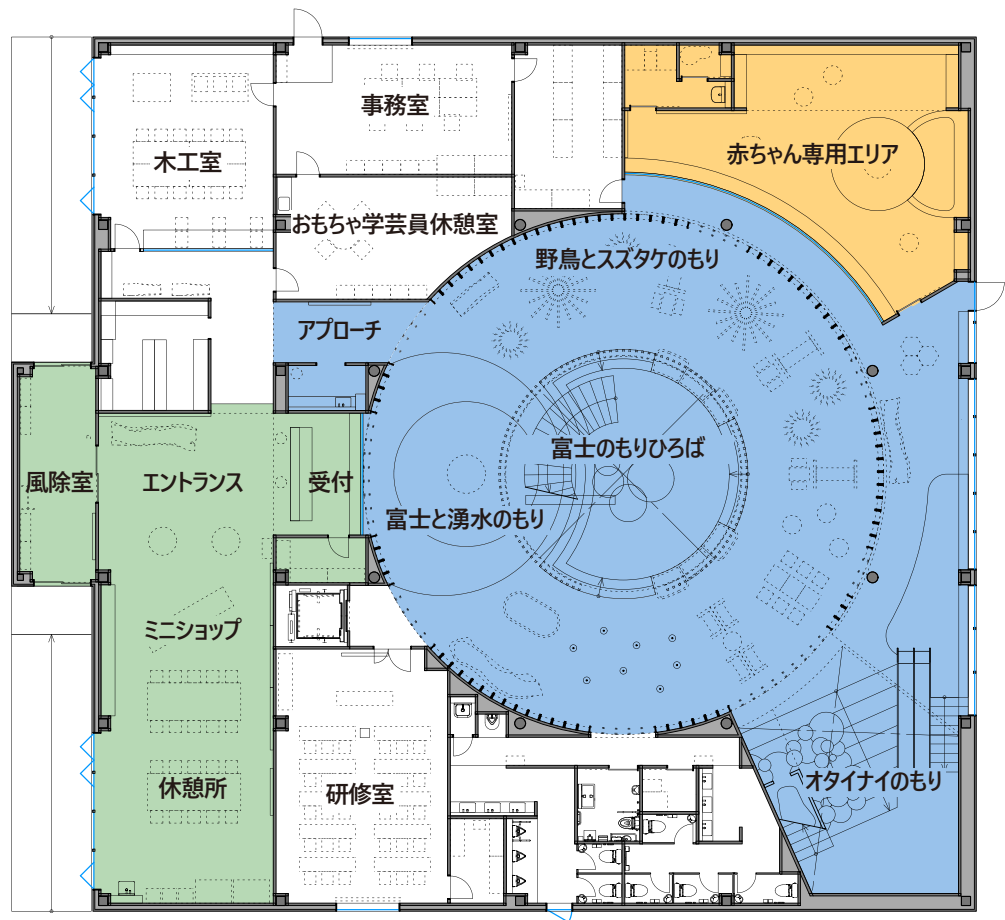
南面



北面

■平面計画

1 階平面図



■エントランスエリア■ 富士のいりぐち・御殿場口～富士山のぞむ、わくわくが始まる集いの場所

受付越しに見える富士山 オブジェ等、来館者に期待感をもたらす始まりの空間。木材に特化した施設であることを伝えながら、誰でも出入りしやすく、くつろいで休憩してもらえるカフェのような設えを目指す。

※役割：受付・ミニショップ・企画展示・休憩所、自販機コーナー・宣伝広告

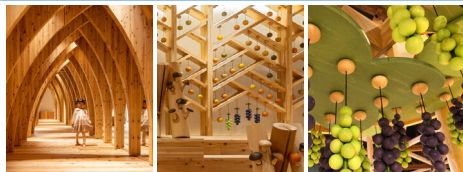


エリアコンテンツイメージ（参考例）

■富士のもりひろば エリア1 ■ 野鳥とスズタケのもり～自然に囲まれた広大な収穫あそびのひろば

入館者が必ず通るアプローチでは空間全体を熔岩トンネルとした木で囲まれる空間にすることで、遊戯エリアへの驚きや期待感を演出する。野鳥とスズタケのもりは最初の遊戯空間であり、ドーナツ状に広がる雄大な収穫遊びエリア。壁全面を竹や桧林に見立てた壁面ルーバー遊具で囲むことで、富士山の麓に広がる大自然の中にいるような没入感の高い遊びを提供する。

※役割：ごっこ遊び、収穫遊び、体験遊び



エリアコンテンツイメージ（参考例）

■富士のもりひろば エリア2 ■ 富士と湧水のもり～富士山の吹抜けと富士山の遊具による空間シンボル

美術館の象徴となる吹抜け空間、角材を削り出して制作する大型オブジェ遊具とその周囲に広がる湖と湧き水に見立てた広大なたまごプールにより、全ての来館者に驚きと感動を与える。オタイナイのもりは 御胎内に代表される熔岩をモチーフとした大階段と、たまごプールを主とした動き遊びのエリア。無意識のうちに遊びが誘発されることを狙っている。

※役割：たまごプール（湧水）、富士山のオブジェ、階段兼ロフト遊具、滑り台、熔岩隧道



エリアコンテンツイメージ（参考例）

■赤ちゃん専用エリア■ 天空のもり～0歳から遊べる、小さな富士山のふもとひろば

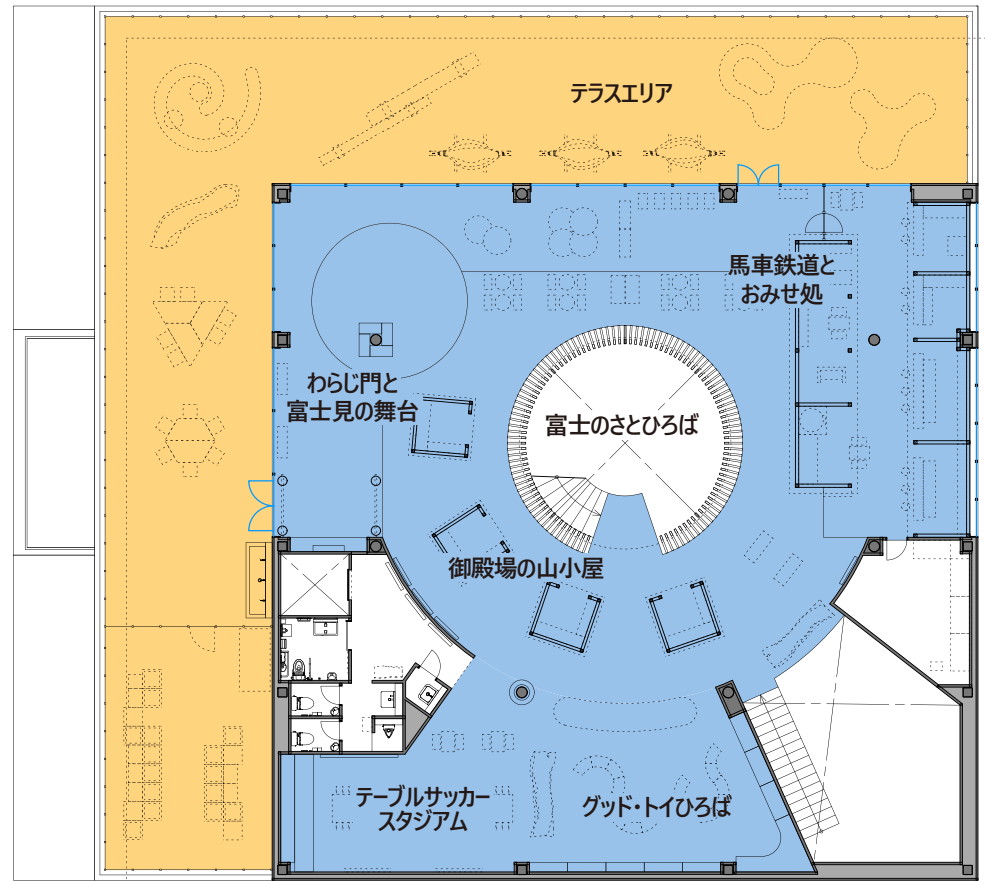
3歳未満の乳幼児専用の遊戯エリア。入ってすぐに眼前にそびえる富士山の遊具で商業施設としての特別感を演出しながらも、美術館の中で最も自宅リビングのような落ち着きや居心地の良さを意識した空間となる。

※役割：3歳児未満専用スペース、おむつ替え、授乳室、乳幼児保護者用の棚



エリアコンテンツイメージ（参考例）

2 階平面図



■富士のさとひろば エリア1 ■ 御殿場の山小屋～御殿場に点在する個性的な多様な小屋を散策しながら遊ぶ

空間全体をおもちゃに囲まれた『宝箱』をテーマにしたグット・トイやテーブルサッカー等が点在するおもちゃエリア。2階の遊び場『富士のさとひろば』のテーマである文化・風習になぞらえ、メインの広場に御殿場に点在する多種多様な小屋（ブース）を配置する。小屋あそびの中で御殿場オリジナルあそびが子供たちの想像力を高める。

※役割：グット・トイ、テーブルサッカー、御殿場の山小屋、自立式遊具



エリアコンテンツイメージ（参考例）

■富士のさとひろば エリア2 ■ わらじ門と富士見の舞台～伝統を遊びで伝える特等席

巨大わらじの展示に加え実際にわらじを履いた姿でコマやけん玉といった伝承遊ぶといった実体験を通して歴史文化を知ることができるエリア。テラスとの視線的な繋がりにより、屋内でありながら広々と開放的な感覚の中で遊ぶことができる。

※役割：わらじ門・つみきひろば・イベントステージ・伝承遊び（けん玉、コマ）

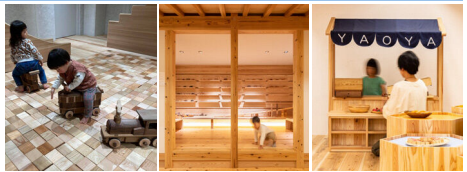


エリアコンテンツイメージ（参考例）

■富士のさとひろば エリア3 ■ 馬車鉄道とおみせ処～御殿場の文化を遊びで学ぶ、歴史の小路

乗り物遊具や食文化を遊びで伝えるお店が軒を連ねる大規模なおまごエリア。御殿場においてかつて栄えた歴史文化『馬車鉄道』を一つのモチーフとし、賑わいと世界感を演出し遊びに没頭できる設えとしている。

※役割：子ども馬車鉄道、御殿場おみせどころ（お店やさんごっこ）



エリアコンテンツイメージ（参考例）

■テラスエリア■ 御殿場富士山テラス～雄大な富士を背景に、自然と遊びを満喫できる日本一贅沢な遊びテラス

展示から遊び、休憩といった思い通りの過ごし方が提案できるテラス。富士山の眺望を堪能できる遊戯機能を備えた大きなテラス空間により、遠方の観光客を含め全ての来館者の期待に応える。日本一の姉妹おもちゃ美術館のコンセプトを掲げるに相応しい贅沢で巨大なテラスと、多少の悪天候であってもテラスの利用を可能とするテラス全域をカバーする巨大な軒天が、全ての来館者にとって記憶に強く残る場所となる。

※役割：自然体験ギャラリー・屋外遊びハンモック遊び・休憩スペース



エリアコンテンツイメージ（参考例）

■内観イメージパース



エントランス

エントランスは木育の拠点・観光施設の顔となるよう、地場産の木材を用いた「豪快さと繊細さ」を併せもつ設えとします。さらには木材との対比として、みくりや染織に見られる藍色をモチーフカラーとすることで、より木材を映えさせる仕様としています。



富士のもりひろば

富士山の形状の吹抜けと、山麓の広大な自然を舞台に、そこに実るカラフルな木の玩具たちが森を彩ります。エリアカラーとなる落ち着いた色合いのあるモスグリーンが、吹抜けをより象徴的に魅せつつ森の中にいる没頭感を演出します。



おたないのもり（階段付近）

滑り台やたまごプール、熔岩をモチーフとした昇り降り斜面遊びが一体となっている大型のロフト遊具、大階段を中心とした遊び広場です。エリア入口は落ち着いた色合いで天井を低くし、吹抜けの明るさを際立たせることで、熔岩隧道の出入口の明暗差を演出しています。



富士のさとひろば

1階の森の中の世界観から解き放たれ、富士山を中心に開放的で明るく、多様な遊びのエリアに囲まれた2階のメイン広場です。湖をイメージした窓回りの青色をアクセントに、大木の下の方形のステージで多様な催しができる仕様としています。